

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈中・3〉	いわき市立平第三中学校
〈実施日〉	平成27年10月20日(火)	
〈実践教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 2 学級活動 ③ 総合的な学習の時間 4 その他()	
〈実践内容〉	<p>昨年度の1学年では総合的な学習の時間に体育館に生徒を集め、いわき明星大学教養学部特任教授石川哲夫先生を講師としてお招きし、2時間の講義をしていただいた。内容として、</p> <ol style="list-style-type: none">① 東京電力原発事故の概要② 自然界に存在する放射線③ 放射性物質・放射能・放射線の理解④ アルファ線、ベータ線、ガンマ線の特性⑤ ヒトの放射能含有量⑥ 放射線飛沫観察霧箱実験装置の仕組み⑦ 放射能の利用⑧ 放射線から身を守る三原則⑨ 今後の廃炉対策 <p>以上の9つに関してパワーポイント資料をもとにご説明いただいた。 自分たちのにとって身近な内容から普段なかなか知ることのできない内容までお話していただき、生徒たちも興味深く話を聞いていた。 また、③の放射性物質・放射能・放射線の違いについて、放射性物質をピッチャー、放射能をボールを投げる力、放射線をボール、キャッチャーを放射線を受けるヒトとしてロールプレイを行った。3つの違いについて生徒たちはその様子から理解しているようだった。 ⑥の霧箱の実験では、実際に放射線の飛沫を生徒全員が観察することができた。目には見えない放射線の様子を観察することができたのは、生徒にとって貴重な経験であった。</p>	
〈成果〉	<p>大学の先生に講義していただいたことで、放射線に対する基本的なことから専門的なことまで分かりやすく、生徒たちも理解できていた。また、普段はなかなか見ることのできない霧箱の実験を観察できたのは大変良かった。 また、石川先生よりパワーポイントの資料をいただいたことで他学年でも活用し、授業を実践することができた。</p>	
〈課題〉	<p>学年全体180名を集めての講義であったので生徒一人一人の理解の程度を図ることが難しい。講義の後に事後の指導の時間を設けることでその程度を図ることができたと思われる。今後活かしていきたい。</p>	
資料作成担当者職(教諭)氏名(竹山 裕生)	学校電話番号(25-2579)	

【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)